

横浜の「図書ボランティアフェスタ」盛況

「読み聞かせ」広がる

子どもたちに「読み聞かせ」や本の紹介などをする図書ボランティア。県内の幼稚園の多くが受け入れているなか、小中学校でも図書ボランティアの活動が、広がりを見せている。3日、横浜市青葉区で開かれた「図書ボランティアフェスタ」には約2000人が集まり、各地で活動する人たちがスキルアップを目指した。

(斎藤博美)



学校の図書室を明るくする飾り付け講座。動物の帽子、フルーツなどさまざまな工作を体験する人が多かった。横浜市青葉区

横浜では小学校9割に普及

フェスタはアートフォーラムあざみ野で開かれた。読み聞かせのこつを学んだり、本を紹介する「ブックトーク」のやり方を知る講座のほか、図書室を明るくする飾り付けや本の修理方法など、読書活動をいろいろな角度からとらえた九つの講座があり、いずれも人気を集めていた。

同市青葉区奈奈3丁目から参加した主婦(41)は、昨年からは子どもが通う小学校で活動を始めた。「読み聞かせは、どの本を選ぶか、どんなスピードで読んだらいいかなど難しいことも多いけど、子どもたちの反応が楽しい」と話す。「このフェスタは一度にたくさんのことを学べると聞いたので、できるだけ吸収している」と思います。

フェスタは昨年に続いて2度目。参加者は昨年より3割程度増え、横浜市内だけでなく相模原市や東京から訪れる人もいた。主催したあおば学校支援ネットワ

ーク代表の竹本靖代さんは、「一度講座に参加した人などからネットワークが広がって、図書活動自体が活発になっていきます」と話す。横浜市教育委員会によると、市内の小中学校で、こうした図書ボランティアの協力を得ているところは年々増加して、今年3月末で92・8%。全国平均の72・4%に比べても高めで、中学校でも増加の傾向だという。

県教育委員会は、「県内の幼稚園ではすでにほとんどが、こうしたボランティアを受け入れている。小学校では7割台で、今は横浜市が突出しているが、今後、ほかの市町村でも充実していくだろう」と見ている。

竹本さんは「活動は、地区センターなどでも実施しているので、興味のある人は相談してほしい」と話している。問い合わせは同ネットワーク(070・6974・0184)へ。